宮城縣起業意見書

宮城縣會
議員

3055

414
A 988

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

國家富強ノ策一ニ非ス然レ𪜈其大要ハ地力ヲ盡シ物産ヲ殖シ工業ヲ興スニ在リ地力盡キ物産殖シ工業興ル時ハ國富ムヲ求メスシテ自富ミ兵強キヲ求メスシテ自強シ而シテ此三者ヲ為サント欲スル先ツ道路ヲ開キ運輸ヲ便ニスル ニ在リ苟モ道路開ケス運輸便ナラサレハ舟車何ニ由テ行カン有無何ニ由テ通セン貿易何ニ由テ成ラン夫レ此ノ如キハ則地力決シテ盡ス能ハス物産決シテ殖スル能ハス工業決シテ

興ル能ハス其弊ヤ人民徒ラニ天利ヲ賴テ人工ヲ勉メス苟且偷安ニシテ旧習ヲ固守シ復タ文明開化ノ何物タルヲ知ラサルニ至ラン其頑陋自是トスル此ノ如シ往時封建ノ世ト甚タ相異ナルナシ何ヲ以テ富強ノ策ヲ講セシヤ我陸羽ノ地タル土壤廣濶田野膏腴所謂ユル沃野千里天府ノ國ナリ然リ而シテ之ヲ上閩ニ比スルニ地力未タ盡サス物産未タ殖セス工業未タ興ラサル者抑亦故アリ今陸羽ノ形勢ヲ觀ルニ山嶽蜿蜒シテ南北ニ連リ大海汪洋東西ヲ環リ物貨運輸ノ際或ハ疊嶂層巒ノ阻隔スル所トナリ或ハ激浪ノ淪溺スル所ト為リ至苦至難言フニ勝フヘカラサル者アリ是ヲ以テ物産アリト雖モ之ヲ四方ニ販鬻スルノ便ナク又需用品許多ナリト雖モ輸入ノ途キヲ苦ム甚シキハ一郡内ト雖モ日ヲ累ネサレハ往復シ能ハサル者アリ物貨唯所在ニ堆積シテ流布セス故ニ賤キ者ハ益ヽ賤ク貴キ者ハ益ヽ貴ク賣ル者ハ賤ヲ苦ミ買ヲ貴キ者ハ貴キヲ苦ム物價其權衡ヲ失フ此ノ如シ且夫レ人ノ刻苦勉厉シテ職業ニ從事スル者一ハ

大利ノ其心ヲ誘ヒ一ハ需用ノ供給其欲ニ充タンコトヲ欲スルニ在リ今ヤ物産製造等ニ從事スト雖モ賣捌ノ便ナキヲ以テ此二者皆意ノ如キ能ハス是其怠墮心ヲ惹キ起ス所以ニシテ百般ノ事業隋テ振ハサル者ハ職トシテ此レ之ニ由ル苟モ陸羽ノ人民タル者一念此ニ及フ豈ニ流涕長大息セサルヘケンヤ朝廷夙ニ此ニ見ル所アリ向ニ野蒜築港ノ挙アリ又東京青森間鐵道築造ノ挙ヲ允准シ將ニ大ニ陸羽地方海陸往來ノ便ヲ開キ以テ邦家無窮ノ福祉ヲ增進セントス是我陸羽地方ノ人民タル者実ニ当ニ冨強ヲ謀ルヘキノ秋ナリ而シテ我宮城縣ノ如キハ野蒜港灣其管内ニ在リ又鐵道通線ノ中央ニ当リ又況ヤ仙臺ハ人民ノ滙聚スル所物貨ノ輻湊スル所縣廳鎮台裁判所諸官廨ノ設置スル所陸羽地方ノ一大都會ニシテ野蒜港ト相近接スルヲヤ然ラハ則今日ノ急務ハ陸羽地方ノ峻坂層嶺ヲ鑿開シ以テ隧道ヲ通シ沿道ノ河川ヲ疏シ或ハ運河ヲ開キ以テ四方ノ路線ヲシテ我野蒜港及仙台ニ連絡近接セシムルニ在リ野蒜港及

仙台ノ陸羽七州ニ関係ヲ有スル此ノ如ク其レ
大ナリ則七州ノ富強ハ我縣ノ施設行為如何ニ
在リト・謂フモ亦誇言ニ非ルヘシ果シテ然ル我
縣民タル者奮起率先シテ之カ標準タルヘシ豈
手ヲ袖ニシテ傍觀シ越人カ秦人ノ肥瘠ヲ視ル
カ如クナルヘケンヤ嗚呼我陸羽僻陬ニ在リト
雖ト道路日ニ開ケ運輸日ニ便ナラハ地力以テ
盡ス可ク物産以テ殖スヘク工業以テ興スヘシ
夫レ此ノ如ク而シテ後鑛山ナリ牧畜ナリ農作
ナリ製造ナリ漸次ニ手ヲ下サハ何ヲ欲シテ得
サラン何ヲ爲シテ成ラン然リ而シテ陸羽ノ人
民ニ望ム所抑又大ナル者有リ何ソヤ蓋シ陸羽
ヲ以テ上國ニ比スルニ啻百般事業及ハサルノ
ミナラス人口未多カラス智識未開ケス是陸羽
人民ニ在テ誠ニ愧耻スヘシトス然レ𪜈之ヲ譬
フルニ上國地力既ニ盡キ山川ノ気発泄シテ餘
リナシ猶老年ノ人功成リ名遂ケ而シテ身體百
骸日ニ衰憊スル者ノ如シ陸羽ハ地力餘リ有ル
猶少壯ノ人血気方ニ旺ニ為ス有ルノ前途甚遠
キカ如シ且夫レ我邦港灣ヲ挙ルニ上國ニ長崎

神戸アリ武蔵ニ横濱品川アリ皆互市ノ地ニ乏シカラス獨リ我陸羽廣袤二百里全國四五分ノ一ヲ占ム而シテ野蒜ヲ除クノ外別ニ一港ヲ開クノ地ナシ是ニ由テ之ヲ觀レハ該港地位ノ緊要ナルハ上國諸港ノ比ニ非ス苟モ陸羽地方ヲシテ物産工業大ニ盛ナラシムレハ其繁盛モ亦上國諸港ニ讓ラサルヘシ果シテ然ル我邦將來ノ富強ヲ助ル者恐ラクハ上國ニ在ラスシテ陸羽地方ニ在ラン況ヤ陸羽ハ北海道ト相接シ其関係最大ナルヲヤ是今日ニ在リ切ニ陸羽人民ニ望ム所以ナリ然リト雖モ是等ノ事業獨智獨力ノ能ク為スヘキニ非ス必ヤ同志相謀リ協心戮力然後之ヲ了スルヲ得ヘシ又巨万ノ財ヲ費スニ非レハ功ヲ竣フル能ハス是レ其勢皆衆人民ノ負擔ニ帰セサルヲ得ス今我縣ノ事業地方税ニ係ル者アリ國庫支出ヲ仰クニ係ル者アリ而シテ今我カ此ニ論列スル所ノ者ハ最今日ノ急務ニシテ速ニ着手ヲ要スル者ナレハ縣債募集ヲ以テ此ニ從事セントスル者左ノ如シ

第一條　北上阿武隈兩川ノ中間ヲ鑿開シテ運河ヲ通スルノ事

昔仙臺藩祖伊達政宗宮城郡松嶋灣ヨリ阿武隈川ニ達スルノ運河ヲ鑿開セリ然レトモ事全ク竣功セサルヲ以テ同郡蒲生村ニ至ル　里間僅カニ漁艀小舟ヲ通スルニ過キス又同村ヨリ阿武隈川ニ至ル　里間ハ一條ノ河線アリト雖トモ水道狹窄ニシテ滿潮ニ際シ僅ニ數本ノ木材ヲ引キ下クルノミ土俗呼テ木引堀ト為ス者是ナリ今ヲ距ル

數年前有志者相謀リ昔藩祖ノ計畫ヲ襲キ鑿開ヲ試ムル然レトモ資用給セサルヲ以テ事遂ニ中止ス誠ニ一大憾事タリ曩ニ政府大ニ起業公債ヲ募集シ盛ニ工業ヲ興セリ而シテ我縣内野蒜築港ノ挙ノ如キハ我陸羽七州ニ在テ其関係ヲ有スル最大ナリ而シテ該運河ノ如キハ野蒜港ニ関係ヲ有スル亦最大ナリ我縣民タル者地方將來ノ大利公益ヲ計ラント欲セハ首トシテ此ニ從事セサルヘカラス今試ニ鑿開ノ方法ヲ挙ル

ニ阿武隈ヲ分流シテ松嶋灣ニ注キ又野蒜
ヨリ東名ニ至ル陸地一里余ヲ鑿開シ運河
ヲ通シ以テ北上阿武隈川ノ両川ニ連絡セ
ントス果シテ然ラハ菅内一般舟楫ノ便ヲ
得中ニ就キ南方宮城名取刈田柴田伊具亘
理諸郡ノ如キ産物需用品等ノ運搬從來牛
馬ニ頼ル者今皆挙テ此運河ノ便ニヨリ輸
出入スルニ至ルヘシ此ノ如キハ物價ノ貴
キ者ハ賤ク賤キ者ハ貴カルヘシ其物産蕃
殖ニ裨益アル言ヲ待タスシテ知ルヘシ且

山形福島両縣ニ屬スル山道即チ栗子隧道
既ニ落成シ又本縣ト山形縣トノ界関山隧
道ノ竣功モ亦近ニアリ又該運河ニ沿フ所
ノ蒲生村ヨリ仙台区ニ達スル木道架布設ノ
挙アリ此時ニ方リ北上阿武隈ノ連絡ヲ通
シ野蒜東名両間ノ運河ヲ開カハ我縣自ラ
四通五達ノ衢ト為リ人物繁盛ノ區ト為ル
足ヲ翹ケテ待ツヘキナリ我縣此ノ如キ片
ハ則陸奥七州隨テ其利ヲ受ケ物産以テ繁
殖スヘク工業以テ振起スヘシ其起工方法

等ノ如キ實測ヲ經ルニ非レハ預メ制定ス
可ラスト雖ヒ今假リニ工費ヲ定メテ十五
万圓ト為ス

第二條　成瀬川改修ノ事

夫レ野蒜近傍及ヒ北上阿武隈ノ兩間ニ運
河ヲ開クヤハ岩手福島山縣三縣ノ利ヲ受
ルヿ既ニ前條ニ陳列スル力如シ而シテ秋
田縣ノ利ヲ併セ謀ルカ如キ獨リ鬼首越ヲ
閉鑿シ且成瀬川ヲ改修スルノ兩事アルノ
ミ然レヒ鬼首越ノ閉鑿ハ工業甚大ニシテ
容易ニ手ヲ下ス可ラス故ニ先ツ成瀬川ヲ
改修シ然ル後漸次ニ鬼首越ニ及ハントス
鬼首越閉鑿ハ別ニ論スル所アルヲ以テ此ニ贅セス　読川ハ源ヲ加美
郡及黒川郡ニ発シ諸郡ヲ貫流シ野蒜港ニ
至テ海ニ入ル長凡二十五里余ニシテ北上
阿武隈ニ次ク大川ナリ然レヒ河底甚浅
キヲ以テ巨船ヲ通スルヲ得ス且夏秋ノ交
霖雨連旬ナレハ河水逆流シ漲溢汎濫屋舍
ヲ壞リ田畝ヲ浸シ沿村ノ人民水害ヲ蒙ル
最甚シ故ニ今野蒜ヨリ加美郡中新田村ニ

至ルノ河底ヲ疏鑿シテ之ヲ深クシ以テ舟
楫ノ便ヲ通シ且他日鬼首越ヲ鑿開シ野蒜
ヨリ秋田縣下ニ達スル路線ヲ通シ同縣ノ
利益ヲ保セ謀ルノ後図ヲ為シ傍ラ水害ヲ
除キ以テ耕耨ノ便ニ供セントス且成瀬川
巨船ヲ通スル時ハ我菅内北部ノ各郡皆運
輸ノ便ヲ得ヘシ是所謂ユル一挙両得ナル
者ナリ人或ハ云フ此工業ヲ起ス費額甚多
ク恐ラクハ得失相償ハサラン是レ大ニ然
シス若シ此事竣功スレハ目下水害ヲ蒙ル
ノ田畝忽良田ト為リ郡村年〻ノ收穫必多
キヲ加ヘ隨テ價額ヲ増スヤ必セリ且沿河
各村及ヒ秋田縣ノ運輸ヲ便ニスルコレヨ
リ善キハナシ議者得失相償ハスト云フハ
何ノ謂ナルヲ知ラサル十リ

第三條　品井沼閉塞ノ事

品井沼ハ志田黒川宮城ノ三郡ニ跨リ周廻
凡五里余平水ハ最深処僅ニ三尺四五寸ニ
過キス然レ𪜈岡陵圍繞スルヲ以テ一朝洪
水汎濫セハ吉田川之ニ注キ成瀬川逆流レ

來リ各村ノ細流モ亦之ニ會シ溢レトシテ
漲溢シ水ノ高サ二丈二三尺トナリ水害拾
有余村ニ及フ昔仙臺藩治中潛穴ヲ穿チ注
入スル所ノ水ヲ放洩シテ之ヲ閑墾ス然レ
ドモ戚瀬川ノ逆流ヲ防カサルヲ以テ其目的
ヲ果サス近コロ十年來縣廳実地ヲ測量セ
シニ戚瀬川ノ逆流ヲ防キ在來ノ潛穴ヲ增
加シ注入スル所ノ水ヲ放洩セハ啻ニ水害ヲ
除クノミナラス二千町余ノ良田ヲ得ヘキ
ノ計畫既ニ成レリ然レドモ之ヲ閑墾スル五
ケ年ヲ期シ毎年五万圓余ノ巨額ヲ要スル
ヲ以テ到底地方税ノ能ク耐ユル所ニ非ス
是其縣債ヲ募集セント欲スル所以ナリ

第四條　荒雄川ニ一大堰ヲ設ケ遠田桃生両
郡ノ用水ニ供スル事

玉造郡ニ於テ荒雄川ニ一大堰ヲ設ケ遠田
桃生ノ用水ニ供スレハ則桃生郡和淵廣淵
鰭ノ三大沼ヲ閑墾シ数千町歩ノ良田ヲ得
ヘシ否ラサレハ啻ニ良田ヲ得ヘカラサルノ
ミナラス近傍ノ郡村年々水害ヲ蒙ムリ田

塍壞敗シ大ニ收穫ヲ減シ隨テ價額ヲ損ス
ルニ至ラン然ラハ則堰ヲ修ムルト否ラサ
ルト其利害得失豈亦明較ナラサランヤ況
ヤ事業モ亦甚難カラサルヲヤ唯工費給セ
サルヲ苦ム故ニ縣債ニ藉リ以テ事ヲ了セ
ントス

第五條　岩手縣下盤井川ノ水ヲ引キ登米郡
石森村通リニ灌漑スルノ用水路鑿開ノ事
此事功ヲ竣スレハ中田沼及其他荒蕪ノ地
ヲ開墾シ用水ヲ疏通シ大ニ便益ヲ得ヘシ
若シ此用水路ヲ開カサレハ開墾シ得ベカ
ラサルノミナラス近傍水害ヲ蒙ムリ為ニ
田畝ヲ損シ屋舍ヲ壞リ年〻ノ損害幾許ナ
ルヲ知ラス実ニ寒心ヲ為スヘキナリ而シ
テ此工業ヲ興ス費用モ亦巨額ヲ要ス是レ
前項ト同シク縣債ニ藉テ着手スヘキ所以
ナリ

縣債募集並ニ償還ノ法説明

右論列スル所ノ五條ハ今日ノ急務ニシテ
一日モ緩フスヘカラサル者ナリ而シテ限

リアル地方税ヲ以テ限リアル（ナキ）ノ事業ヲ興
ス能ハス是縣債募集ノ已ムヲ得サル所以
ナリ其金額ハ事業上ノ計畫如何ニ因リ多
少ノ増減ナキ能ハスト雖モ之ヲ要スルニ百
万圓ニ過サルヘシ今之ヲ假定シ第一條ヲ
以テ十五万圓トシ第二條ヲ以テ　万圓ト
シ第三條ヲ廿五万圓トシ第四條ヲ
圓トシ第五條ヲ　圓ト為ス其償還方
法ノ如キハ縣會ノ決議ニ因リ地方税並ニ
起業上ヨリ生スル利益ヲ以テ年〻其幾分
ヲ拂ヒ二十年ヲ期シ悉ク之ヲ償還スヘシ
今試ニ起業上ノ利益ヲ挙ルニ運河隧道等
ノ開鑿ハ蓮舟車ノ便ヲ通スルノミナラス
商業隨テ起リ税額モ亦自増加スヘシ且河
川ノ疏鑿ハ水害ヲ除キ目下旱濕ノ場變シ
テ美地良田ト為リ價額必騰貴ニ至ルヘシ
且其縣債証券ヲ発スル亦一般公債ノ方法
ト同（大）シ（小異ナレ共）ケレハ其有所主タル者目下其利子
ヲ收ムル（二至テハ却テ一般公債ニ勝レル者アリ）ヲ得ハシ此ノ如キハ則直接間接
ヲ論セス其人民ニ利益ヲ与フル浅尠ニ非

ス是其縣債募集ノ今日ニ在リ一大緊要ナル所以ナリ其募集方法ノ如キハ逐條論列スル左ノ如シ

第一條

第一節　宮城縣運河開鑿河川改修並ニ用水路ヲ通スル工業ヲ興起スルニ付其費用ニ充テンカ為ニ縣債ヲ募集シ名ケテ宮城起業公債ト云フ

第二節　此縣債ハ高金百万圓ヲ限リトシ工業着手ノ実際ニ從ヒ其時〻縣會ノ議決ヲ經テ発行スル者トス

第三節　此縣債高百万圓ノ募集方法ハ其時ノ景況ニ因テ之ヲ定ムル者トス

第四節　現今野蒜東名間並ニ北上阿武隈間ニ運河ヲ鑿リ且品井沼開墾等ノ事業ヲ興スカ為メ右高百万圓ノ中ニテ差向キ実額金圓ヲ募ルヘシ

第五節　今度発行スヘキ縣債高金　圓ハ年七歩ノ利息ト定ムト雖ヒ其証書ニ向テハ年五分ノ利息ヲ附シ残リ二歩ノ利息

金ニ当ル分ハ之ヲ毎年当籤ノ者ニ与ル者
トス

第六節　今度発行スヘキ縣債高金　　圓
ハ其價額高金百圓ニ付金八十圓トシ無記
名ニシテ高金二拾五圓ノ一種ト定ムヘシ

第七節　此縣債元金償却方ハ当明治十五年
ヨリ向二十ヶ年ヲ限リトシ其金高ヲ年数
ニ割合即金　　圓ヲ毎年抽籤ノ方法
ヲ用ヒ之ヲ拂渡スヘシ

第八節　右元金ハ毎年一度十二月ニ利息ハ両度
六月十二月ニ拂渡スヘキ者ト定ムヘシ
但利息七歩ノ内五歩ハ本條ノ如ク残リ
二歩ニ当ル分ハ元金ト共ニ抽籤法ヲ以
テ拂渡スヘシ

第九節　此縣債ノ元利金ハ宮城縣ノ地方税
ヲ以テ支出スル者トス

第二條

第一節　此縣債ハ明治十五年四月一日ヨリ
六月三十日迄ノ内三期ニ割合之ヲ募集ス
ヘシ

第二節　利息拂渡ハ明治十五年十二月ヨリ
始ムヘシ但同六月迄ノ利息ハ元金拂込ノ
時割引ニテ之ヲ仕拂フヘシ
第三節　元利拂渡シ抽籤ハ毎年十二月十日
ヨリ廿日迄ノ間ニ之ヲ施行スル者トス但
当明治十五年ヨリ之ヲ始ムヘシ
第四節　抽籤ノ場所日限等ハ十日以前ニ之
ヲ廣告スヘシ尤此縣債証書所持主ハ盡ク
之ニ立會フヿヲ得ヘシ
第五節　抽籤者ハ宮城縣廳ト縣下ノ重立タ
ル者五人以上ト協議ノ上ニテ毎年其人ヲ
撰定ス但其人ハ縣債ニ関係ナキノ人ニ限
ルヘシ
第六節　抽籤ノ時ハ其籤匣甲乙二箇ヲ備ヘ
甲匣ニハ初年ナラハ第一号ヨリ第　号マ
テノ籤ヲ納メ置キ乙匣ニハ当籤者ニ与フ
ヘキ金額ヲ記シタル籤　百籌ヲ納メ置キ
公衆ノ面前ニ於テ甲乙ノ両抽籤者ヲシテ
同時ニ其籤ヲ抽キ甲ノ当籤ノ番号ト乙ノ
当籤金額トヲ相應セシムヘシ

但甲匣ノ籤数ハ年〻元金ヲ拂戻スニ從
テ減少スヘキ者トス

第七節　抽籤者ハ甲ノ当籤ノ番号及乙ノ金
額ヲ高声ニ讀上ケ書記ヲシテ一〻之ヲ記
載セシムヘシ

第八節　抽籤濟ノ上ハ其当籤ノ番号及乙ノ
金額ヲ公告シ請取方ノ手續ヲ指示スヘシ

第九節　当籤者ニ与フヘキ割増金（別ニ取除
キタル利子中二十ヶ年平均ニ歩ニ当ル分助
一ヶ年金　圓）配当ノ方法ハ即左ノ如
シ

第十節　右ノ外縣債ノ募集並ニ元利拂戻ノ
取扱等ハ政府ノ起業公債ノ手續ニ從フヘ
シ

第三條

第一節　今度募集スヘキ金　圓ノ内乙
号預筭金　圓ヲ支出セハ金　圓

ノ残余アリ其残余金ハ公債証書調製其他
縣債ニ係ル費用ニ供シ尚残金ノ分ハ縣
廳ニ保存シ置キ之ヲ他ニ貸付（確実ナル抵当ヲ取リ）
其元利金ヲ以テ毎年抽籤方執行利拂等ニ
付テノ費用ニ充ツヘシ

第二節　乙号ニ掲クル運河船賃商税並ニ閑
墾田地等ヨリ生スル年々ノ利益ハ縣廳ニ
積立置キ之ヲ以テ或ハ公債証書ヲ買收シ
又ハ確実ナル抵当ヲ取リ貸付ヲ為ス等漸
々増殖ノ方法ヲ設ケ将来工業ヲ振起スル

ノ基本ト為ス

第三節　此縣債ノ利息年七歩ニ当ル金額ハ
毎年地方税ヲ以テ支出スト雖モ其内二歩
ニ当ル分ハ第二條第九節配当方法ノ通始
終金　　宛抽籤ヲ以テ付与スルニ由リ
初年ヨリ十年迄漸〻剰餘金　　圓ハ前
節ノ如ク其利子モ亦同様取計フヘシ
但本條剰餘金配当計算等ハ別表ノ如シ

第四節　運河及開墾田地用水路等後来ノ修
繕費ハ總テ地方税ヲ以テ支辨スル者トス